

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号

28

学校名

大垣桜高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	豊かな人間性を育み、家庭・福祉教育をリードする高校として専門知識や技術を活かした地域との連携・協働した学びを通して生活産業や地域社会に貢献できるスペシャリストの育成を目指す学校			
学校教育目標 (教育方針)	(1)人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2)専門知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3)広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。			
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の定着と家庭・福祉の専門的な知識・技術を身に付けるために、自ら学び自ら考え、主体的に学習に取り組む生徒 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を身に付けて、正しく判断し、主体的に社会に貢献しようとする生徒 望ましい勤労観や職業観を養い、職業人として必要な豊かな人間性と能力の伸長に努める生徒 		
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活態度を身に付け、自ら判断し行動できる態度の育成 基礎的・基本的な学力の向上を図り、家庭・福祉の専門的な知識・技術を習得させ、一人一人の進路実現を支援 家庭や地域社会と連携・協働し、安全で安心な学校づくりを推進 		
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な生活習慣を身に付け、自ら学習環境を整えて充実した学校生活を送ろうとする生徒 家庭・福祉の専門的な学習をとおして、自ら課題を見つけ、解決し、地域社会に貢献しようとする生徒 情報モラルや規範意識の向上に努め、防災意識を高め、自分の命は自分で守るという強い意識をもった生徒 		
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見付け解決できるための確かな学力の育成と、創造力を育てるための主体的・対話的な学習指導 地域産業を担う将来のスペシャリストとしての資質・能力の伸長と、主体的・意欲的な学習態度の育成 特色ある学習内容の魅力化を図り、中学校・地域・企業へ発信する機会と手段の工夫 			
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標		
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・科目の目標を踏まえた工夫ある授業実践により、自律的な学習態度を定着させるとともに、自ら学ぼうとする学習態度の育成に努める。 主体的・対話的な授業をデザインし、「分かる授業」「意欲的に取り組む授業」の実践に努めるよう校内研修・授業改善を行う。 		
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> その時、その場でどのような行動が適切であるか自分で考え、行動する自己指導能力を育成する。 共感的生徒理解を基盤とし、職員間の情報共有、共通理解、組織対応を徹底する。 		
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 社会において信頼と尊敬を得る人材を育成するために、基本的生活習慣、豊かな教養やマナーの定着、基礎学力の向上のための指導を充実する。 進路指導に対する全職員の共通理解を深め、高校3年間を見通した計画的・組織的なキャリア教育を行うとともに、ガイダンス機能を充実する。 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目に関する基礎的な知識・技能を定着させ、各学科の専門的な分野の学習を深め、生活産業界や地域社会で活躍できる生徒を育成する。 		

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成績と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	生徒が理解し意欲的に取り組める授業の実践ができるよう、校内研修を充実させると同時に授業改善に努め、主体的・対話的な学習活動を工夫する。	施策 II-8	公開授業の活性化 授業参観報告 学校関係者評価	<p>公開授業週間や研究授業の参観を活用し、授業改善に努めることができた。基礎学力の定着や生徒の言語能力育成に向けて、論述の機会を取り入れたり、課題に取り組ませるなど、授業内容の工夫もできた。教員が一生懸命で多面的な評価がされていると認めている生徒が多いことがわかる。授業の中でICTの活用が出来ている教員が多いが、タブレットの通信トラブルもあり、十分に活用できていない授業もある。</p> <p>・学校関係者評価 学習指導に関する項目 生徒AB回答平均 79.0%</p>	B	○家庭・福祉の専門的な学習を通して生徒の「コミュニケーション能力」や「思考力・判断力・表現力」の育成をする中で、地域社会に貢献しようとする生徒の育成ができる。▲各授業クラスごとにTeamsを使用できるようにしたが、活用頻度に差が大きい。休校や学級閉鎖時等に備え、オンライン授業をスムーズに進めるためにも習慣づけたい。	
	指導目標と指導規準を明確にし、教材、教具の工夫や指導方法と効果的なICT活用の研究を継続する。	施策 II-9					
	基礎学力を定着させ、自らの学びに興味・関心をもたせるとともに学習習慣の確立を図る。	施策 II-8					
生徒指導	身だしなみを整え、T P Oに応じた挨拶・会釈・正しい言葉遣いを身に付けさせるとともに時間管理能力を育成する。	施策 I-1	遅刻のペース数	<p>日々の生徒指導に加え、臨時放送や集会等で身だしなみ、遅刻、交通安全、情報モラル等について様々な注意喚起を行ってきた。</p> <p>・1月末時点において遅刻者数は昨年度よりもスローペースではあるものの、すでに1,000件を超えており、コロナ禍前の水準からは程遠い。</p> <p>・自転車通学者の交通事故が増加。</p> <p>・情報モラル違反の指導件数は減少傾向。</p> <p>・「心のアンケート」「いじめに関するアンケート」により早期対応ができる。</p>	B	▲生徒の様子が変化し、対応の仕方も年々難しくなってきたと感じるが、人としての常識・良識等については、強い意思をもって指導し、啓発していくことが不可欠である。	
	交通安全・不審者対策・情報モラルに関する指導を充実させ、安心・安全な学校を目指す。	施策 III-19	交通事故件数 情報モラル違反件数			▲遅刻常習者とその保護者への対応を強化する必要がある。	
	教育相談を充実させ、いじめ防止について組織的に取り組む。	施策 I-3	心のアンケート いじめに関するアンケート			▲道路交通法改正の内容をさらに周知していく必要がある。	
						▲教育相談室の待機職員が足りておらず、臨時に空き時間の教員を割り当てているが、相談件数の多い本校の実態を考えると危機的状況であり、職員配置を再考する必要がある。	
進路指導	自己の適性を正しく理解し、インターンシップや体験的な教育活動を通して、望ましい勤労観・職業観を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。	施策 II-13	生徒の進路実現 1回目の就職内定率	<p>年度目標に沿って、計画通りに各学年に応じたキャリア教育を推進することができた。特に、3年生の就職・進学面接指導では、外部講師による指導を取り入れ、コミュニケーション方法やマナーを含めた総合的な支援を実施した。また、担任を中心に、生徒および保護者への情報提供に努めるとともに、個別の小論文指導についても全校体制で丁寧に対応することができた。</p> <p>・1回目の就職内定率:89% ・基礎力診断テスト「D3-」全校: 4%</p>	B	○個別支援に注力し、就職未内定者についてはハローワークと連携し、最新の求人情報を基に適切な就職支援を行った。公務員希望者に対しては、警察署や自衛隊と協力し、面接指導など直接的な支援を実施し、イメージギャップの解消に努めた。	
	キャリアコンサルティングの面接指導を通して、社会的・職業的に自立するための教養とマナーを身に付けることができるよう支援する。	施策 I-1	基礎力診断テスト結果			▲担任を中心とした対応を行ったものの、生徒の主体的な行動は十分ではなく、自発的な取り組みを促す指導方法の工夫が必要である。	
	主体的に進路選択を行い、保護者の理解・協力が得られるよう家庭と学校で連携をとり、ガイダンス機能を充実させる。	施策 I-7	学校関係者評価			▲基礎力診断テストの結果は、昨年度4%だった学習到達ゾーン「D3-」の生徒が4%強に増加しており、基礎学力の底上げが課題である。	
						□ □ □ □ □ □	
その他	学科の特徴や生徒の実態を把握し、確かな学力の育成や専門的・実践的な指導を行うための授業研究に務める。	施策 II-14	学校関係者評価 各種検定・資格取得率	<p>学科の特徴を生かした授業内容を新聞等で取り上げてもらえた。また、中学校へ出向くPR活動を行うことができた。学力の育成と個々への対応を図るために、授業、放課後の個別対応やICT機器の活用の工夫、課題・プリントの工夫を行った。各学科の学びを深める内容で地域連携を行なうことができた。地域の企業、施設、団体との協働を通して、社会の課題やニーズに答えるための体験や学びができた。</p> <p>・生徒を対象とするアンケートによくあると回答した% ・外部（地元自治体、地元企業等）との連携を生かした教育活動に積極的である。R6(64.6%)→R7(70.7%) ・専門的な学習を通して、地域社会や生活産業に貢献できる人材を育成している。R6(85.7%)→R7(85.1%) <保護者・学校運営協議委員を対象とするアンケート> ・専門的な学習を通して、地域社会や生活産業に貢献できる人材を育成している。R6(77.6%)→R7(79.5%)</p>	B	○個々に差はあるが、確実に学年を重ねることによって成長が見られる。また、多種多様な学習活動を行うことで、個の特技を生かすことができ、多くの生徒の活躍の姿が見られた。	
	地域と連携・協働や様々な実習・研修を通して職業・勤労に対する意識を高める。	施策 I-4	地域担い手事業等評価			▲自分の成長を自覚できていない生徒もあり、進路や人間関係で悩む姿が見受けられた。授業や実習での成果を継続的に生徒自身が記録し、成長や興味の変化の見える化で、自己肯定感を高めるとともに、学習目標の設定や自己分析、進路決定の一助にも繋げていきたい。	
	地元企業や学校と連携した実践的な取組で、専門教科の学びを深め、将来について考える機会を設ける。	施策 II-13					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年12月18日

・学習指導に関する学校関係者評価には、生徒の回答と保護者の回答に差がある。学校での学習指導や生徒の成績評価、外部機関との連携等の学校活動について保護者の認識が不十分だと考えられる。保護者に解り易い情報発信が必要である。（教務）
・「生徒指導部」「教育相談係」「養護教諭」「スクール相談員」「特別支援教育支援員」の連携や情報共有について検討する。（生徒指導）
・ICT機器を有効に活用した生徒の活動の記録（ポートフォリオ）づくり。（家庭・福祉部）

実施日：令和7年12月18日

学校関係者評価

・学習・生活指導に加えて進路指導の必要性があるため、1年次から将来を見据えた指導を継続してほしい。
・卒業研究作品発表会は3年間の集大成として、すべての学科が主体的な学びの姿を見せてくれた。コロナ禍でできなかった仲間との高め合いに期待している。
・社会に出てからも必要なことを教えていてもらいたいため、外部との繋がりや支援も必要。
・ICT活用が進んでいるが、新1年生からタブレット持参になることもあり機種の違いも生じる予想がつくため、教師の機器対応の技量も上げてほしい。
・教育相談室の現状を確認したが、今後もきめ細かく対応してほしい。

学校運営協議会委員から、自校評価に対する評価と来年度に向けての提案をいただいた。
今後も、地域との交流を大切に、支援をいただきながら魅力ある学校づくりを推進していきたい。